京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可からず

發行兼編輯人 高木久一郎
印刷人 松久
發行所 京城 新報社
仁川支局
東京支局

雜錄

●ひかへ帳（三） かもめ

◎多家が商品の符徵同樣と言はゞ云へ處分の注意せられたきは雅號のことなり。當時は某官立高等學校の校長として時めき給ふ去る奏任觀の、嘗て書生時苦心の余に成る雅號なりとて、誇り顏に同窓に示し給ふを、密と覗れば、生れ故郷は將玉關、彼の百靈の西に當る絶なる形に因みたりと云ふ、屈の西の郷ち「クッセイ」。

◎吾輩が昔の故事を引かんもこと〳〵しや。未だ頑是なき小學生徒の、教室にてたづねらるゝは櫻樹の種類、一重の八重の山櫻のと、兎に角什うやら全級の生徒の智識を合せても、其の大略は答び盡したりと思ふ頃、他の生徒等の答ふる間、黙まりと片隅に扣へ居たる一人の、未だあります」と答へたは、朝櫻、夕櫻、鑑は種類ではありませんと、教師に打ち消さるゝも承かばこそ、何一つあります鬪夫の藍櫻。此の生徒が因緣はと訊けば、其の家の出づるにも歸るにも、朝に夕に下地妓等が歌舞の練習、雨夜の睦言なくも「櫻見よとて名をつけた」なぞ、家の息子なりとか。

◎夜櫻は可成りに巧案なれど、一塵の生れ故郷はだゝいあがあまの借夫の郡、何ぞやら云ふ子供芝居に、玉鑽姫を勤めし兒の、羽衣の曲浦で聲張り上げ「あいづ舞樓へのう、あづ舞樓へのう」。

◎寂寞をと小禮置けて、四隣寂しき十時過ぎ、通りかゝつたは、某市外の園藝館、彼方の書庫には、未だ電燈い光明燈々と、閲覽室にも人影の皆見ゆるを、乾度見やつた同行の友の一人、以て名あり、然し或は堪たらしく「ム、感心な未だ起きてる」と感慨無量。

◎申さいふ字は杓子に似た字と、覺束なくも字劃が便り、好きなればこその四苦八苦、人には知れぬ苦心の數々、心の理には何れ夫々記憶の據處つくりて、現に角意味一貫したる丸本を暫ひ覺ゆるが多ければ、注意して聽かば、實に經何の何のと可笑しき節の多かるは素人義太夫の文句なり。或る小天狗殿の、日常手放さへ迚り勝なる身が、發聲の稽古の効は今日を晴れの大段物肩衣姿勿体らしく千代の御殿「唄の唱歌も身にあたり」で、一段聲を振り絞つて「豚に生姜は身に害り」、聽衆フッと吹き出して、一段は滅茶〳〵。後にて訊けば、小天狗殿、其の唄街路を實歩く、イロハ歌術生斷答とやらん讀賣の文句に、萬歳調の似通ひたるより、夫れを記臆の據どころとせしなりとか。

外事一束

▲本黨 を上海に設け偏程、平會等を首領として革軍着々新政の實行に努む

▲布告 して革軍浙江、江蘇、江西、安徽、福建の人民に惡稅の徵收を許す

▲芝罘 既に革命黨の占領する處となり天津亦危く同市場金融界の危機迫る

▲山東らに匪徒起り兇徒六千曲阜文を首領として官軍に抗し勢猖獗を極むと

▲露國 守備兵北京天津に赴かんとして給藥蜜を出發し暫く長春城内に止る

▲奉天 革命黨員の入込む者數名何等かの運動に着手し政府當夜を嚴戒せり

▲黎元 の勸降書に對し同志と協定せずば獨斷を以て確答するを得ずと答ふ

▲倫敦 在留の革黨上海香港銀行に托し百万兩を送致し革軍に盤援せんとす

▲北京 政府無氣方の結果取締法空文に屬し各新聞悉く政府反對記事を掲ぐ

▲伊國 トリポリ併合を宣言す而もアラブ族は倘くまで伊と戰はんの意志有す

▲總遜 殖相辭職し公果條約が獨逸及各國に與へたる好印象を汚と誹難高

○新刊紹介

△大日本國民中學會講義錄 今回更に改良を加へ第十六回新學期第一號を出せり中學程度の講義錄多しと雖も本講義錄程整頓しあれるものは他に求むべからず文章は通俗平易を旨とし可成に解說しあれば小學校卒業程度の者は何人も能く理解するを得殊に難解の文字は別に字解を附する等用意至れり盡せり（東京市神田區駿河臺大日本國民中學會）

△實業之世界（八卷二十一號）三宅博士「如何なる大人物にして如何なる人物乎」根津一氏の「滿洲革命」不風生の「南公の處世主義を評す」等讀むべし（一冊十一錢東京市芝區愛宕町三丁目實業之世界社）

△新公論（十一月號）時代思潮と劍道柔道（笹森北天）獨逸帝國の勇猛性（東條中將）案ろい政治家と舍（三宅雪嶺）神嶽と豐年祭との關係（久米博士）新內閣の建辯家（鷲乎麿）社會道德の破壞者（京城學人）等本誌の要目萬報覽は本誌獨特のもの文藝には變裝女記者の「小料理屋の女中に住込」といへるあり趣味盡くる所を知らず（一冊郵稅共廿一錢五厘東京市本郷東片町新公論社）

△風俗志林（第一卷第六號）古代風俗に關して學者大家の考證學說を掲げ又說林欄には歷史の字面たるべき有益の講演を載せ口繪挿畫共記事中の參考に資すべきものを集めたり考古學者歷史家等には最も必要の雜誌なると覺ゆ（會費三ヶ月八十五錢東京市下谷條西町風俗研究會）

俳句

新報俳壇 花もみじ吟 野崎小蟹

行秋やぼんくらを踏き倦みて
何物もなければ秋も行に任す
朝霜やにいの畑は庵の裏
神無月耶蘇の會堂にぎやかぞ
水ちよろ〳〵三清洞の小春哉
煖閑やちよこまん鼠巣を喰て
水梯の落葉地に敷く朝な〳〵
山眠ふる頭や靡國革命に
新賣るヨボと話すや今朝の冬
石炭を借りて風呂焚く寒さ哉
歸る花入も防ひ來ず庭淋し
納屋の横縄たるみけり釣干菜
木の葉〳〵官邸の夜や劍の音
見切足袋爪に破れん色さめん
ちる紅葉變裝の人通りけり

梁川庄八（やながはしやうはち） 第三十一回 小金井蘆洲演

甚「何んと勝手氣儘な事を申すな、親が病氣だ看病は誰でも出來るぢやないか、殊に終日相撲を取る譯ではなし、一旦土俵に上つた者が降りて歸ると云ふ事があるか、出役の前をも憚らず無斷に歸ると云ふは無禮な奴だ、假初にも今日の勝負が房川館山に任します主君の御手に觸るゝ者である、第一今日は平素の孝太郎ではない勝見山と云ふ相撲の格を以て參つて居るからは、一家の事は私事である草相撲とは違ふぞ、代官出役に及んで非常を警める此場所で、乃公の許しを受けず勝手に立歸る不都合な奴ぢや……早々引立てゝい」一同は異背になつて敗闘あらく云放つ 名「ウエー恐入ます左樣なれば右の趣き孝太郎に申し傳ます間、暫時御猶豫を願とう存じます」甚「宜しい早々伴れて參れ、若し伴れて參らんと其方迄倶々處分を致すぞ左樣心得ろ」名「畏りました」荒居村の者は一同手を拍つて 皆「和泉村の役人共迄も大禮に聘てねへと見て取つた者だから、勝見山を逃がしたに違へねへ……和泉村の腰拔憶病者メ、逃がさなくても宜さゝうな者だな」坏と囃し立る、和泉村の名主組頭等は「生憎な時に又病氣を起した者だな」と切齒をして「無理にも賴んで土俵へ上げなくてはならねへ」と一同揃つて孝太郎の家を差して出掛けました、此方は孝太郎は母親の病氣何うあらうと一目散に飯綱權現を飛出して我家へ歸つて見ると元々持病の癪、怜の苦勞から起つた無事の容子を見るより、吻と息を吹返しましたから、孝太郎も大きに安心して種々と勞はりながら母親の背中を撫擦つて居ります、所へ名主組頭の面々が參りまして 名「何した孝太郎……母親の病氣は」孝「是は〳〵ハア有難う存じます、わざ〳〵名主樣や皆の衆迄して誠に恐入ます、御見舞下さいます、阿母さんはモウ大丈夫で只だ私の事をいろ〳〵安んじての癪ではございませんから御安心下さいまして」名「夫んならマア宜かつたが、就て孝太郎氣の毒だけれども今日は是非引返して一番取て貰いたい者だ、れ主が歸つたと云ふので何時にないれ代官樣が嚴しい御叱り、何と云てもれ譯屆にならねへだ、夫に又荒居村の者の云ふには何か乃公達が主を逃がしたやうに、ヤレ卑怯だの臆病だのと云やあがるし、又大難の野郎は土俵の上で四方を見廻しながらニヤ〳〵輕蔑笑ひをして反身になつて、足砂を均らして居やがる其面憎くさ、外の見物人は此角力一番を觀物だと樂しんで居たのにれ前が歸つて了つた者だから、皆張合拔けがして頻りにブツ〳〵云て居る譯だ此儘にして置くのも口惜しい、和泉村の名折れになるから是非行つて取て呉る譯にはならねへか」言葉を揃へて懇々〳〵賴みますと、母親は枕を上げて 母「れ名主樣誠に恐入ましてごぜへます、實は此子は今日大關と取るを樂しみに昨夕から夜の明けるを待兼て居りました位、只私が萬一孝心な此子に怪我でもあつたら何うしべゑかと取越苦勞から起つた持病の癪、孝太郎が無事に歸て來たと思ふと直ぐに癇がついて癒りました我儘病氣で、皆樣に御心配を掛けて相濟みましねへ、モウ大丈夫だから何うぞ伴れて行て下せへ、貴方達に御迷惑を掛けては濟まねへからナア〳〵何うぞ 名「イヤ阿母忝ない……孝太郎に十俵の上で怪我なぞさせる氣遣ひはない、倘し又萬が一にも有たとしたら親子共に一生涯立過しにするから不自由は掛けねへよ、何うぞ一寸貸してくんな、サア孝太郎何うぞ行て取て呉れ阿母の許しが有たからにやあ否やはあるめゑ 孝「ハイ〳〵畏りました、一年三百六十日にたつた一番の晴れの相撲を取るのでございますから、勝負に拘はらず私しも取りたい、歸りたくも無かつたが阿母さんの病氣と聞ては歸らずにはいられねへ、夫が爲に貴方樣に御迷惑を掛けて濟ませんでした、夫じや阿母さん一寸行て來ますから決して心配せずに待て居て下さい」と慰めながら我家を立出る 名「忝ない夫では息子さんを借りて行くよ」名主一同悅んで孝太郎を取卷いて再び飯綱權現の相撲小屋を差して這入ました、見物一同が「ソレ勝見山を伴れて來た、孝太郎が來た」とワツ〳〵と囃し立る。



北京特電

▲欒州兵北京に向ふ　張紹曾の率ゆる欒州第二十鎭の兵二千は七日午後七時三十分天津を發し北京に向へりとの報あり爲めに北京宮中の恐慌甚しく資政院議員の如きも續々として會議を開かず

▲公使團の悲觀　北京政府が革命黨を政黨と認め且つ革軍將校を要路に任用する等あらゆる緩和策を講じつゝあるに對し各國公使は之によつて騷動を挽回すること不可能なりとし前途を悲觀し且つ唯公使團が一種の[illegible]を設くるは袁世凱と黎元洪の妥協成立如何にあり

▲厦門道臺逃亡　厦門も既に革命軍の手中に落ち道臺は船にて逃亡し[illegible]は日本領事館に何れも避難せり

▲休戰見込　黎元洪は休戰を承諾せず爲めに袁世凱は山東省第五鎭の兵を[illegible]せしむることの必要を言明せり

▲官革兩軍交戰　京漢鐵道沿線中石家莊附近にて官革兩軍の戰鬪開始せられ目下交戰中にて附近の鐵道は破壞せられたり

▲危險官軍入京　政府の電命に依り吉林第三師團は北京に向つて出發したるが此上は如何なる行動を取るやも知るべからず危險は益々切迫し北京は戰の巷に陷るは免れざるべし

▲巡撫衙門包圍さる　山東[illegible]三千名は巡撫衙門を包圍しつゝあり

▲獨立地總督　蘇州は張[illegible]の兩兵を擁し獨立總督[illegible]

▲江蘇浙江獨立　江蘇省全部の地及浙江省に於て街は獨立を宣言し

▲清の年號を用ひず　上海に於ける清國人は宣統の年號を用ひず[illegible]

▲在京佛人避難　在北京佛人は在留大使館區域外に在るもの悉く區域内に轉居せんことを通告せり

▲宮城攻擊準備　北京に潜伏せる革命軍は陰暦八日(十日)過ぎを期して宮城攻擊を企てんとし旗標等を準備せり而して宮城攻擊の危險を感じ内城にある滿人は悉く外城に移りつゝあり

▲長沙は平穩なり　革命黨の手に歸したる長沙は其後至極平穩なりと云ふ

▲山東省の態度　山東省諮議局は資政院の執れる態度に關し若し資政院が憚ふ處なく專斷的行爲に出づるに於ては山東省は獨立すべしと通告し來れり

▲各國兵士增派　米國は水兵補充の名目の下に二百名の兵士を增加し英國は交代兵士の歸還を止めて北京天津間に約三千の兵士を配置し獨乙も亦不日青島より派兵し斯くて北京は各國軍の駐劄場と化するに至るべし

▲動亂と國債の前途　英、米、獨、佛が清國政府に貸與したる金額は十億以上にして其擔保は關稅鐵道鑛山等なるが革命軍が北京を陷落し皇帝攝政王以下皇族の蒙塵となり生命財產の危害を生ぜし場合に於ては事實上朝廷は滅亡し債權の不安を來すより之に應ずる手段として擔保を差押ゆるの外なくそれと同時に外國の干涉起るに至り遂に各國の出兵を見るに至るべしと觀測せらる

▲滿人同志會組織　滿州人は滿蒙聯合して同志會なるものを組織し滿蒙王公大官の應援を得て目下の時局及將來に就ての問題を講じつゝあり

東京電報

▲清帝蒙塵準備　清帝は奉天に蒙塵の準備中なりと九日公報ありたり

▲米國の派兵準備　紐育發電として最も信ずべき筋の洩らす所によれば非律賓群島滯在の米國陸軍兵五千餘は一軍を作り一令の下に四十八時間以内に出發し得べき樣準備しつゝあり該軍隊は清國に於て滿漢兩種族の虐殺行はるゝ場合か或は第三國の行動を牽制する場合以外に出動せざるべし

▲金融界大攪亂　小幡天津總領事の發電によれば天津金融界は銀號錢舖の閉店に次で大清、交通、直隸の大銀行も又一と先づ支拂を停止するの已むなきに至り旁々四日より五日間休業をなして善後策につき商務總會と團体と入方苦心し外國銀行より借款を企てたるも何れも成功せず五日を過ぐるも尙開業の運びに至らず更に三日間延期をなし政府に向て救濟方を請願する所ありしも政府に於ても目下の場合救濟の手段なきものゝ如く是又失敗に終りたり一方今に及ぶも之が救濟の途なく天津金融界は混亂狀態にて外國租界の質屋も金融追逼し去月廿一日夜より一口五圓以上の質物は取らざる事となり細民の金融甚だ困難となれり一方欒州軍の向背未だ定まらず又一方に於ては上海芝罘相踵て革命軍の手に落ちたりとの飛報あり昨日夜より種々の謠言再び盛んに一時小康に赴きたる人心も又動搖の兆ありと

▲南京官兵不叛　九日着公報によれば南京官軍は獨立する模樣なりしが八日朝遂に總督衙門附近にて革命軍と戰鬪開始し革命軍擊退さる死傷六百一名あり

▲革命軍募債の名義　上海發電報によれば支那共和政府の内債二千萬弗は中華民國軍政府軍事公債の名目を以て發行せり

雜報

●寺內總督着發　寺內總督は十日末明光濟號にて馬關到着船內にて朝餐後上陸大元帥陛下を奉迎し直に扈從して久留米に向ひし旨電報ありたり

●結數連名簿規則發布　十日總督府令百四十三號を以て結數連名簿規則發布四十五年一月一日より施行せらるべき要項を擧ぐれば地圖及所有者を異にし道路、河川、溝渠、用水路等を隔てゝ土地の連續せざるものを除き地圖を變換したるとき所有權を移轉したるとき及び登錄したる土地を合併せんとするときは遲滯なく府尹又は郡守に申告すべし又地稅を免除したる荒地を還起し未登錄地を開墾し又は水面の埋立官有地の拂下げ又は讓渡を受けたるとき(但し山林を除く)公共用地として免稅したるもの之を廢したるとき所有者の住所氏名又は名稱を變更したる時は同く府尹又は郡守に申告すべき事等にして違反者は科料に處せらる

●林野撰定標準　農商工部は要存置豫定林野撰定標準に關する件數項を各道長官に通牒せり其標準を擧ぐれば左の如し

一、軍事上國有として存置するを要すと認むる個所

二、學術上特に存置の必要ありと認むる個所

三、保安林又は之に準じて取扱を要する林野にして國の經營に屬せしめざれば充分に國政を達し難しと認むる個所

四、封山其他特別の關係ありし個所但し其必要を認むるに足らざるものは此限りに非ず

五、一事業區として經營するに足る林野にして約二千町步以上集團する個所

六、要存置豫定林野の經營上附屬せしむるを便利なりと認むる個所

右各號に該當する國有林野を要存置豫定林野とし存置を要する程度の高下に依り更に之を甲乙二種に區分す但し第五號の個所にありては其關係部落民一戶に對し二町步以内の部落林豫定地を畜し其の殘地に付調查するものとす

●南大門外擴張道路設備　南大門より停車場前に至る御成町道路改修所擴張工事は昨今盛んに從業中なるが右は朝鮮首都に入るべき第一着の道路擴張なれば出來得べきだけ壯麗にする必要あり當局者も種々考案の結果人道と車道とを區別し中央に車道として路面に割栗を敷きコーヲにて堅め人道は何れもコンクリートブロックを敷きつめ御車道の兩側には常綠樹の並樹を植栽し電車は人道の一方に通行する事となる筈にて其他街燈の點火等に十分意を用ふる計畫なるが全部竣成は明年三四月の頃なるへしと云ふ

●電車線の變更　日韓瓦斯電氣株式會社にては新龍山漢江通り六丁目より舊龍山元町四丁目電氣鐵道接續線認可申請中の處愈八日付を以て認可されたるを以て直ちに工事に着手の筈なるが同線落成の上は現今古市町に於て分岐せしものを漢江通り六丁目に移し分岐點迄を全部復線とし車臺を增發する由にて或は古市町元町四丁目間(青波線)は廢止さるべきも之が爲め大なる不便はなかるべしと云ふ

●朝鮮棉花の移出量　朝鮮より昨年度に於て日本に輸移出せし棉花、實綿及繰綿の數量並に價格を揭ぐれば清國は數量百十三萬九千二百〇一擔此の價格三千四百十三萬三千〇二十一圓朝鮮は數量三萬七千二百九十六擔價格四十六萬八千九百八十二圓にして清國は四十二年度に比し一千百萬圓の增加を見朝鮮は十四萬六千圓の增加を示したりといふ尙朝鮮は本年度は昨年度に比し多額の移出あるべしと

●動亂と輸出官煙　清國動亂と我輸出官煙とに關し東亞煙草會社の主要地位にある一社員語つて曰く元來清國に於ける我官煙輸出特許區域は今次昨今の動亂地と相離れ販路の如き專ら大連及び營口以北南北滿洲に限られ居るを以て未だ動亂の爲め直接さしたる打擊を蒙らざるものゝ如く最近營口支店より簡單なる報告ありし外何等の情報に接せざるを以て其詳細を知るに苦しむ又營口支店よりの報告によれば動亂の爲め金融著しく逼迫し支那人側特約賣捌店の買入自然手控へとなり一千梱の註文口一二百梱と買溢りの有樣にて紙幣相場變動のため多少の損害を受け居たりとの事なり但し一方英米煙草トラスト同樣或は之より以上の打擊を受け居るべければ此機に乘じ販路擴張上には好地位に立ち得るやも測り難しと云々

●華商總會決議　京城在留清國商人は八日夜華商總會に參集して上海との商取引は危險に就き當分之を中止する件及び今後同一步調を執り互に損失を招かざることに努むる件等を決議したり

●商工調査會總會　既記の如く十日午後六時より當地會議所商工調査委員會を開き九日夜同會常務幹事會に於て決したる調査事項日鮮人の商工取引改良外四件に付協議すべし

●定例長官會議　十日午前九時半より總督府會議室に於て定例長官會議を開き山縣政務總監、石塚、倉富、荒井、俵、池田、宇佐美、菊池の各長官、小城技師、山形中佐等出席し十時半散會したり

●文官任用例則發布　朝鮮總督府にては今回奏任文官として總督府及所屬官署等に採用する場合には一年以上試補として又判任文官に採用するものは見習として一年以上各行政事務を實地練習せしむる事に定められ府令第四十二號を以て十日發布されたるが右は發布の日より實施さるゝ筈なり

●未墾地貸下數　農商工部調査に係る十月末日現在未墾地貸下總件數二百五十件にして同反別一萬一千九十一町步なるが之を日鮮人別に記せば內地人百十二件にして同反別五百九十五町步鮮人百二十八件同反別六千二百六町步なりと云ふ

●土地測量現況　土地調査局測量部にては昨年九月より四年間の豫定にて大三角本點に着手し居れるが未だ着手せざるは咸南、咸北の兩道のみにて其他は豫定通り進行し京畿道北部、黃海道大部及平安南道南部へは大三角補點に着手し慶北忠南は既に小三角測量に移り居れりと

●船舶令案逐條審議　朝鮮船舶令は既に當局者に於て立案起草濟みたりしが目下總督府參事官の手許に於て關係當局者と逐條審議中の由なるが遠からず法制局に廻付さるべく發布を見るも遠からざるべしと云ふ

●民團稅滯納の弊風　京城民團に於ける本年度第一回の納稅督促狀を發せしものは何れも六月迄の徵稅に屬するものにして其未納稅金額二萬六千八百七十五圓此人員千七十二人にして內滯納處分を施したるもの龍山を除き千二十九人なりと如此滯納處分をなす間際までも納稅を怠れるは當民團の弊風にして這は納稅者が公共負擔の觀念乏しきと一は民團から徵收に來るから自から進んで納に行くに及ばずてふ橫着な考を持ちをる者多き爲めなりとは實に忌むべき事ならずや因に第二回年稅の滯納者は前期よりも增し金額三萬四千六百八十一圓人員千八百十六人に上れりと

●京都觀光團來京　既記の如く京都日之出新聞主催に係る京都實業家朝鮮觀光團の一行二十五名は十一日午後六時三十分南大門驛着入京浦尾旅館に投宿當地に二日間滯在の筈なり

●日朝間電信線障碍　京城大阪線九日午後三時釜山以遠海底線の部分に於て障碍を生じたるを以て日本內地朝鮮間の電報は之が爲めに遲延を免れずと云ふ

哈爾賓より一筆

橫尾古迷

峯岸水浪兄足下

予等一行は、旭邦子の主張を容れ長春より一足跨ぎに秦家崗即ちハルビンに向ひ、八日朝安着、ボロ馬車にて市中を乘廻し候、資力なき日本人は官民共に平和なる戰爭には努め候、日露戰役前當地に在留せし同胞は五百人なりしに今は千餘を算し居候、併し其內二百餘名は例の娘子軍に有之候。先づ松花江を望んで、沖、橫川を追懷し、プラットホームに立つて伊公を追吊するが如きは、予等一行の本能にて、他を云ふは愚に候。

●スタア博士招待　…十一日朝出發…　南大門通齒科醫ハアン氏は九日夜スタア博士を招待し社交會を催ふしたり當夜の出席者は同博士の外市原ゲール兩博士齋藤山林局長淺見判事隈本中學校長山縣、峯岸兩新聞社長石田視學官、丹羽望月兩青年會幹事其他外人邦人二十餘名にして始めにハアン氏の挨拶あり次にスタア博士の半島內旅行談あり了つて博士の希望により紀念帳へ各詩句を認め各快談に時を移し解散したるは午後十時なりし尙博士は十一日朝南大門發內地へ赴かるゝ由なり

●金融組合營業開始　京畿道管內に於ける本年度金融組合新設は富平、廣州、揚州、長湍、長湖の五ヶ所なるが組合員は各二名にして何れも資金下附ありたるを以て開業せり

●小松長官の歸任　寺內總督を見送り釜山に趣きたる小松總務部長官は十一日午後八時歸任すべし

●岩佐東拓理事の歸任　北鮮地方視察中なりし岩佐東拓理事は十一日歸任する由

●朴齊純子の歸京　天長節奉祝の爲め朝鮮貴族を代表して東上せし一行中の朴齊純子は十日午後八時十分南大門着列車にて歸京す

●柳參與官の出張　京畿道柳參與官は九日午前八時より三日間の豫定にて郡政視察の爲抱川へ出張せり

●竹內少佐の出發　軍司令部副官より步兵第十五聯隊(高崎)へ轉隊したる竹內少佐は十日午前出發赴任せり

●松村憲兵副官の巡視　憲兵司令部の松村副官は明十一日より約二週間の豫定を以て黃海道を巡視する由なり

●內地人の電燈瓦斯使用　京城民團に於ける現在の戶數は九千八百餘戶なるが此內電燈又は瓦斯燈を使用する家屋は電燈使用千八百六十九戶瓦斯燈使用二千二百二十一戶にして使用電燈數一萬六千四百三十二個瓦斯燈數六千百八十七孔口なりと云ふ

●鐵道青年會の例會　龍山なる鐵道青年會にては十一日夜例會を催す由なるが當夜は秋山法學博士の講演あるべしといふ

●實會社分工場開始期　既報東亞煙草會社平壤分工場の建築工事は略ぼ竣成を告げ器械も既に到着したるを以て來月上旬より製造に着手すべしといふ

●滿鮮直通列車の乘客　滿鮮直通列車九日夜南大門驛發著の乘客數は着は一名もなく發は西洋人四名內地人五名にて西洋人及內地人一名は奉天迄の通しにて他は平壤行なりと、

●元町小學校新築上棟式　兼て龍山民團立元町小學校新築工事は豫定の通り進捗し來る十二日上棟式を擧行する由

●粟山檢事の送別會　仁川區裁判所檢事粟山象吉氏は今回大邱區裁判所に轉勤する事となり不日仁川出發すべきにより在仁官民有志は十日午後六時半より仁川俱樂部に於て盛なる送別會を催せり

●岐阜縣人會開催　當地岐阜縣人會秋季例會は十一日午後五時より靑木堂樓上に於て開催の筈なり

●新義州清國領事館事務開始　新義州清國領事館は其後酒會の選定中なりしが愈々同地本町九丁目元入船樓跡を借り受け七日より事務を開始せる旨總領事館に通知ありたり

●咸北の殖林事業　咸北雄基にては今回海面松觀、松平洞間の河岸四百二十間の地に洞民二十八名を出役して柳樹二千六百三十本を植付けたり

●鮮人看護婦養成難　各道の慈惠醫院に朝鮮人看護婦を置くことは彼我の便利なるのみならず患者に慰安を與ふる上にも必要なるを以て其筋にては鮮人の看護婦志願者に對しては經費の範圍內に於て多少の給料を支給し內地人看護婦の指揮の下に業務を實修せられつゝあるも志望者は至つて少なく偶々之れあるも看護婦としての資格を缺き且つ邦語を解せざるに因り適當の者を得ること殆んど困難なり故に目下各道慈惠醫院を通じて僅かに二十人に過ぎずと云ふ

仁川港出入船舶

△薩龍丸　十一日　芝罘より入港
△香羽丸　同　橫濱より入港
△不動丸　同　小樽より入港
△秀吉丸　同　大阪より入港
△百長丸　同　牛莊へ向出港
△香羽丸　同　鎭南浦へ向出港

公人私人

▲富家正議(遞信局技師)九日開城へ
▲松丸綠之助(辯護士)同平壤へ
▲橋秀太郎(太平生命保險取締)巴城館

▼京城手形交換高▼

十一月十日　高　一二八、〇七〇、一八〇　枚數　七三九

▼茶役▼

清國の革命亂に就て、最初我國の實業家は、事態よりも清國人の爲ることが大袈裟であるなどゝ、別に意にも介せず濟してをつた△所が案外の大事件となつたばかりでなく、直ちに日清貿易の上に大影響を及ぼして來たので今更のように俄に狼狽し始めた△其れもその筈なり、上海から重慶まで長江一帶に亘つて十ヶ所の開港場があつて、累年上海を除き此開港場へ向け外國から直接輸入してをる商品が二千七百萬圓、清國諸港から輸入せらるゝものが七千八百万圓である△而して日本からの輸入は上海を合せて年々五千万圓と云ふ額となつてをる、其輸入品の重なるものは、綿絲三千萬圓、燐寸百七十萬圓、砂糖四百萬圓、綿布二百萬圓、昆布百二十萬圓、其他水產物百七十万圓、硝子蝙蝠傘等雜貨二百萬圓餘である△斯くも多額の商品が動亂のために不捌けとなるのであるからドウして狼狽ずには居られぬ△現に此種商品の輸出地たる大阪神戶門司長崎橫濱及び北海道等の財界は昨今漸く恐境に陷らんとしてをる△更に、我國が清國から仰いでをる原綿、油糟、雞卵、繭、苧麻等の品物が輸入杜絕となつたものなら、其價格の暴貴は勿論、需要地の困難も亦甚だしいことゝなる△然れば此動亂が何日までも鎭定せないときには對清貿易に關係する會社中には或は破綻を釀すものなきとも限らぬ、あゝ憂ふべき事であるぞ



●新町の稲荷堂

(三)七日午後四時　白面子

坊さんは語り續ける「病氣平癒の祈願なぞするにしても肝腎の本人に其氣が無く只ハタの者丈けが如何に願いでも駄目だ貴君のれ願になる妹さんにしても左樣だ、貴君丈けが信仰を初められたのでは駄目、本人の妹さんに其心が無くては不可ません」と此所和尙さん大出來と申す可し「御尤です、併し私の妹と來たら女學生上りの小生意氣なのですから稲荷樣や祈禱ちや無い病氣は醫師で無くては駄目だなんて淺墓な議論を振回すので閉口して居ますが私は又此と正反對の意見を持つて居ますので時々衝突します……現に角一つ行つて下さい氣休めに」と言ふ、何を一つだか譯も分らぬのに和尙さん委細承知して墨染の衣を引つ掛けて神前の護摩壇に上つた、妹の歳を二十五と聞き取るや否や鐘をガン〳〵と叩いてれ經文を唱ね出すと同時に四十歳位の男が入り來つて和尙の傍に座を占めて同じ樣にれ經文を讀み上げるナカ〳〵巧な者だ、僕は退屈紛れに茶の間らしい一室を見廻した眼に付いたのが高橋章之助君の寫眞が新町の姐妓連の寫眞と列んで壁に懸けてある女學生姿の山邊とし子さんの寫眞もある、暫らくすると和尙は思ひ切つて高く鐘を叩き陀羅尼品を誦し乍ら神籤を取り上げ踊でも踊るかと思はれる容子でカチャ〳〵と振り回して居たが軈て一本を抜き取つて何やら書物を見乍ら「れ歳は二十五でしたね」と念を押しつゝ考へて居たが漸くにして僕の方へ向き直つて徐に「妹さんは姙娠して居られるのだ、れ腹が痛むでしよう」と云ふ「エゝ併し未だ獨身なんですから姙娠とは不思議です殊に監督は充分して居る心算なんですけど……今時の娘ですから獨身だからとて姙娠せんとも限りませんけど、夫れとすれば大に不都合だ、實に怪しからん奴だ」と大に激昂したらしき僕の態を見て居た和尙さんは更らに書物を見直して「若し姙娠で無いとすれば肺病か肋膜炎かも知れぬから用心せぬと不可ん、殊に二十五と云ふ歳が甚だ惡い年だから用心に勝くは無しさ」と云ふ「御尤用心に勝くはなしだが姙娠で無ければ肺病か肋膜炎になるとは驚きましたなア」と聊か冷評く見る、ズルト和尙は「醫者には診せましたか」と尋ねた「見せは見せたが病名は聞きませんでした尙は一應婦人科醫に診て貰ひましよう」と云ふと和尙は異議なしと云つた風をして禮盤を下つて僕を茶の間に導いた(此所でカンは神籤が惡いからでは無く僕の不眞面目と和尙の判斷の誤りに外ならんのだ、僕は徒らに他の信仰するものを誹謗するものでは無いと云ふ一事だ)

●男女合併相撲

花月樓上　▽鈴木龜太郎のニコ〳〵

時は何時なんめりや明かに治まる御代の四十四年霜月七日の事なりけり當地第一の料亭花月の玄關へスッとも云はぬ護謨輪七臺轅を列ねて「御案內―」の聲諸共ヌックと突つ立ち上りし七人武者あり、素破こそ善き敵御座んなれと勝てれブッに選入りれ白粉塗り立てて紅つけたる仲居藝妓の女武者ども「敵イラッシャイ」とれ手手を突いて「敵や誰れ」と帽子の眉庇深く鎮座ましまず面な眺むれば誰あらう此手の侍大將は今は天下に時めき給ふ京城日報社長吉野太左衛門君にして遙か引退つて從ひしは撞球界の名人鈴木龜太郎等とこうは知られたり皆樓選ての御馴染なり「遠慮あるべからず、れ通りなされ」「通らいでか」と女關口より既に言葉戰ひ一合あつて通る座敷にれ料理より早く能り出でたる美形には光菊を筆頭に勝次、れ筆、十郎、桃太郎、小達磨なんど孰れも駒露下の若武者なり獻〳〵つ献されつのれ酒戰の眞最中誰が言ひ出しけん斯くては勝負何時果つべしとも思はれねば立上つて角力で勝負を決すべしと呼出兼行司はれ客の某、第一番には片屋**小達磨**片屋**吉野**と呼出に伴れ立ち出でたる小達磨は緋縮緬の褌にサルまた股一つに向鉢卷、吉野山はと見れば紫縮緬の兵古帶取つて早速の締込み呼吸を圖つてエイヤと計り引組んで押合ひへシ合ひしが勝負は着かず遂に酒入引分けの大角力、次は**光菊**には**鯨洋**と呼び上げらる鯨調子を下し光の聲にて立上りしに光菊早く飛び込み羽がひ締め寄靠に圖つて光の勝とはなつたり、シャ物々しき敵の振舞ひかなと**不動山**と名乘り掛け光菊が厭がる奴を無理矢理に引つ張り出して摑み掛れば光菊面倒なりと突出したる肱鐵砲美事に極つて不動山はゴロ〳〵〳〵重ね〳〵の味方の敗北に少々逆上したるれ客方眼鏡を外して床に置き呼出しも待たず自ら**白眼川**と名乘り掛け**十郎**相手に相撲ひたり十郎善く戰ひしも揉られてぞ逃げ出したり次はれ客方の**高位山**はれ**筆**、**勝次**を薙ぎ倒せしも遂に光菊の肱鐵砲に尻餅突いたる負方は見苦しかりし最前より此樣子を眺め居たる**鈴龜**はれ客方の耻辱を雪がんと光菊、れ筆、小達磨等花月方を一棒に突き切りたる眼覺ましき働きを必憎しと思ひしか行司を勤めしれ客方の一人、**森柳**と名乘つて立向ひ勝誇つたる鈴龜の三つを掴んで犬コロ投げ胸を叩いて立つたる樣は眼覺ましかりける次第なりし此一番を打止めに敵も味方も滿足して解散したるは夜も明け放るゝ事なりし「此が此旅行中での一の御土產」と鈴木龜太郎のニコ〳〵談

●高女校生徒の音樂會

▽十二日正午より

京城民團立高等女學校にては十二日(日曜日)正午より同校舍に於て同校生徒の音樂會を開催すべしと番組其他は次號に詳報すべし

●孫澤ホテルの午餐會

▽本社の兩檢代表者招待

本社は去る三日本社主催奉祝天長節手古舞行列に參加したる中、京兩檢番代表者及藝妓代表者拾數名を十日ソンタクホテルに招待し午餐會を開きたり

●仁川の姦通事件公判

原籍大阪市南區島津町六番町七番地當時仁川新町二丁目三番地の三鍼力職木村常次郎(五〇)は妻子の手前も耻ぢず去明治四十三年三月原籍地に於て自分の雇人たる原籍京都市下京區新町通り松原吉御影町五百四十六番地大角重三郎の妻ひさ(三五)と姦通し爾後醜交を繼續し居たるが常次郎は本年四月中妻子を携ひ仁川に移居し可愛き姦婦は大坂に殘しきたるも常次郎は煩悩の淺ましさ遂にひさとの醜交を斷念する事出來ず而ひさを呼び迎ふるの手段として去八月二十四日長女こう(一六)を仁川仲町の一富士へ藝妓として身の代金三百二十圓に住み込ませ即時百六十圓を受取り內六十圓を女房に渡し職人等の賃錢を支拂はしめ自分は金百圓を懐中して上坂して眠もなくひさを仁川に連來り同居せしめ居たるも兎角家內の風波甚だしきより九月二十五日一富士より娘こうの身代金百六十圓を受領し更に京町に一戸を構ひひさを住はせ互に醜交を續け居たるをひさの夫重三郎より告訴する處となり京城地方裁判所仁川支部公判に於て公判開廷あり來る十三日判決言渡の事に決定閉廷したりと

●東亞煙草當籤番號

明治町東亞烟草株式會社にては九月二日より十月三十日までの間に於て朝日、大和、敷島、芙蓉の同社製紙卷烟草懸賞附大賣出しを行ひたるが今般各新聞社、通信社員等立會の上最も公平なる抽籤を行ひたる結果其の各等當籤番號は一等イロハニホ各號共九六六三番、二等イロハニホ各號共一八三三番、五九一番、三五一一番、三等は一九五番を起點として千番飛び四等は九〇番を起點として百番飛びの各號に定り明十一日より卅日までの期限內に於て景品の引換をなすといふ

●詐欺漢捕縛さる

本町二丁目理髮店末廣軒職人三重縣人末松喜代次(三三)は九日午前九時京城本町一丁目時計商平井よね方に至り旭町二丁目居住京城區裁判所判事喜頭兵一氏の使なりと稱し金指輪八個(代百三十餘圓)を騙取し逃走せしが敏腕なる佐藤岸長野の三刑事に逮捕され目下取調中

●擧動不審の曲者

岡山縣和氣郡三石町字野谷當時住所不定末廣淵(一十六)は擧動不審として南部署に引致され目下取調中なり

●本派本願寺の報恩講

長谷川町本派本願寺にて來る十一日晩より十六日中まで宗祖大師報恩講執行付ほ十六日は滿座に付き參詣人に對し御齋を供養する筈にて晝は午後二時より晩は七時より說敎あるべし

●金光敎祖大祭

永樂町二丁目金光敎京城敎會所に於て十一日午後一時より敎祖第廿九回秋季大祭を執行し式後京城仁川龍山各敎會長の說敎あるに付參詣勝手なりと

●漢城病院の大改革

漢城病院にては廣告欄記載の如く今般院內に大改革を施し親切叮嚀と藥價の低廉とを旨とし專ら患者の便を計ると

●演藝だより

▲壽座の大入　壽座にては既記の如く昨十日夜を初日として千里眼自覺術者三田光一の自覺術、空中自在皿、身體石割術等妙不思議の演藝あり當夜は三十錢均一のことゝて非常の大入にて好評を博せしが尙は今晩も光一獨特の自覺術の外種々面白き奇術ありと

▲好評の奈良男一座　昨十月夜歌舞伎座に於て初日を出し大阪浪界に有名なる美音を以て得意の南部阪雪の別れを演じ滿場の喝采を得たる奈良男今十一日夜の讀み物は「赤穗大評定」「大石郞の遊興」の前後二席



十日壽座に初日を出したる千里眼自覺術者　三田光一

▲浪花館の女義太夫　連夜大入氣の竹本小浪一座今晩の語物は御祝儀(入登)入陣八ッ目(光昇)御所櫻三(照龜)百度平內(小町)安達原祭文(數榮)岸姫飯原館(小浪)れ染久松野崎村(掛合)

●秋菊苗の無代分配

岡山縣邑久郡長船農事試驗場草花部にては荷造費送費として切手二十錢を送れば各國菊園寄贈の最珍種秋菊苗十種を撰拔し何人にも直に送與する由通知ありたり

●古迫商店自祝宴

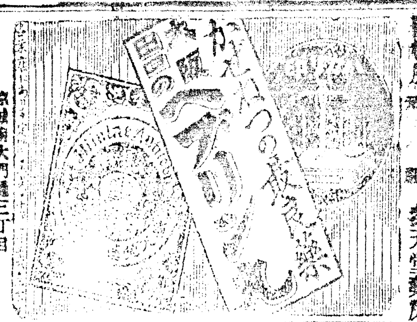
永樂町二丁目の貿易商古迫角次郎氏は豫て新築中の家屋落成したるを以て去る五日以來三日に亘りて知己を招き自祝の宴を張りたりと



▲八日の貴紙茶袋子の贈ふた利子制限法の事を思出したが京城の高利貸の親玉明治町の豊田芳松の貸附方法のを一寸御知らせしようが茶袋子の言ふ通り總て貸附は約手に限る約手の裏書は二人以上として期日は一覽拂で四十圓の貸金に對し五十圓の約手を入させ五十日間每日一圓づゝの掛戻しだから誠の正身は廿五日間が益に立たぬ譯だ夫れで二割五分の利子を取り乍ら掛戻金を三日も延引せば其時は口約の五十日は言はずして約手期日の一覽拂を申立て速かに支拂命令と來るのだ茶袋子以て如何とすだ實に恐敷は豐田の手段(一閑口生)▲新龍生君に答ふ三一〇二、三一〇三ともにフイ(小僧)▲後段配達漏の件は恐れ入申候以來屹度注意致さすべく候(其係)▲日の出學校教員三浦某は近來頻りに裕福なる生徒の家に出入して媚を呈し教場に於ても特にさん附にして貧生には亂暴狼藉を極む(憤慨生)▲果して事實か校長の取調を促す(係)▲京城又は仁川にて剃髮店の有る所數へて下さい(忠商生)▲京城某所の美人繪葉書屋の內情實見生に申す御存じの點を洩して下さい(係)▲本月七日發刊京日一頁一話欄に水原附近岩崎の田地の本年收穫二三千町歩に對し籾で七千石を得たと大層稱讃して有たが何かの間違ならん二三千町歩と云へば一反歩と餅斗落數六九萬斗落(二斗落一反歩として)即ち籾種六九万斗日本升換算二三千石壽くと云ふ事になる是に七千石の收獲とは大した者だ內地の資本家が見たら朝鮮田地に愛想をつかすだろう社會の木鐸たる新聞紙少し注意して欲しい返答如何(長谷川町アキレタ生)





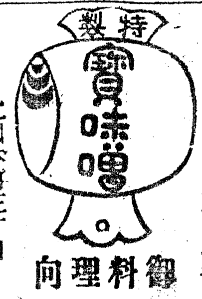



アイボリー石鹼
SOAP


通月丸




複方吐根散
たんせきの特効藥


寶味噌



